

14時30分解禁

平成29年6月 全国百貨店売上高概況

平成29年7月21日

I. 概況

1. 売上高総額	4,720億円余
2. 前年同月比	1.4% (店舗数調整後／2か月ぶりプラス)
3. 調査対象百貨店	80社 229店 (平成29年5月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,733,756m ² (前年同月比：-3.9%)
5. 総従業員数	72,779人 (前年同月比：-4.5%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	11-1月 -1.8%、12-2月 -1.5%、1-3月 -1.2%、 2-4月 -0.6%、3-5月 -0.1%、4-6月 0.7%

[参考] 平成28年6月の売上高増減率は-3.5% (店舗数調整後)

【特徴】

6月の売上高は1.4%増と2か月ぶりに前年実績を上回った。

背景には、円安株高で富裕層の高額消費やインバウンド(約184億円/41.4%増)が好調推移したことにより、少雨高温の天候が夏の季節需要を押上げたほか、多くの店舗でクリアランスセールを6月末開始に前倒ししたことなど、プラス与件が重なったことが挙げられる。

その結果、中期トレンドを示す3か月移動平均値(+0.7%)も18期ぶり(平成27年10-12月/+0.3%以来)にプラス転換し、回復基調は着実に高まってきている。

地区別では、大都市(10都市)が4か月連続プラスの2.4%増となった。6か月連続で増勢が続く札幌(4.8%増)・大阪(7.3%増)の他、6都市(仙台・東京・横浜・名古屋・京都・福岡)で前年をクリアした。一方、地方(10都市以外の地区)については、地域経済の不振や中間層消費の弱さから、8地区合計で0.7%減(2か月連続マイナス)と前年実績には僅かに届かなかった。

商品別では、セールの前倒しやファッショントレンドの積極展開等により、主力の衣料品(0.5%減)は前年並みまで回復。雑貨(7.9%増)は、資産効果やインバウンド需要で、細分類の高額商材(美術・宝飾・貴金属:4.6%増)と化粧品(16.7%増)が依然好調で7か月連続のプラスとなった。また、ラグジュアリーブランドが好調な身のまわり品(2.8%増)も2か月ぶりのプラス。

中元の前半戦については、店頭受注の減少傾向をネット受注の伸びがカバーする形で、ほぼ前年並み(その他食料品:0.5%減/菓子:1.3%増)で推移した。

今月のプレミアムフライデーはセール初日と重なった店舗が多く、限定商品購入やイベント参加者の増加に繋がった。

【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「6月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇東・西日本では、中旬まで移動性高気圧に覆われやすく、平年に比べて曇りや雨の日が少なかった。このため、日照時間は東日本でかなり多く、降水量は東日本太平洋側でかなり少なかった。一方、北日本では、北海道を中心に降水量はかなり多かった。また、西日本は冷涼な高気圧に覆われやすく、気温が低かった。

(2) 営業日数増減 29. 9日 (前年同月比 ±0日)

(3) 土・日・祝日の合計 8日 (〃 ±0日)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数129店舗)

①増加した: 45店、②変化なし: 32店、③減少した: 52店

(5) 6月歳時記(中元、父の日)の売上 (同上/有効回答数98店舗)

①増加した: 10店、②変化なし: 55店、③減少した: 33店

全国百貨店 売上高速報 2017年06月

第1表 地区分別売上高

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
全 国	472,030,516	100.0	1.4 (0.4)
10都市	326,464,991	69.2	2.4 (2.3)
札幌	11,954,855	2.5	4.8
仙台	6,156,925	1.3	4.1 (-4.3)
東京	131,648,440	27.9	1.1
横浜	29,708,021	6.3	0.6
名古屋	29,511,106	6.3	0.6
京都	18,786,237	4.0	2.4
大阪	61,515,548	13.0	7.3
神戸	11,959,133	2.5	-0.5
広島	9,894,856	2.1	-1.4
福岡	15,329,870	3.2	5.0
10都市以外の地区	145,565,525	30.8	-0.7 (-3.5)
北海道	1,429,289	0.3	-3.1 (-40.2)
東北	7,327,503	1.6	0.2
関東	67,273,352	14.3	0.8 (-3.9)
中部	10,879,632	2.3	-1.8
近畿	19,082,141	4.0	-5.2
中国	10,795,508	2.3	0.0
四国	7,444,165	1.6	0.0
九州	21,333,935	4.5	-1.2

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
総 額	472,030,516	100.0	1.4 (0.4)
紳士服・洋品	29,941,253	6.3	-0.8 (-1.7)
婦人服・洋品	86,981,960	18.4	-0.6 (-1.6)
子供服・洋品	8,427,141	1.8	4.6 (3.7)
その他衣料品	10,232,441	2.2	-3.2 (-4.2)
衣 料 品	135,582,795	28.7	-0.5 (-1.5)
身のまわり品	59,883,613	12.7	2.8 (1.9)
化粧品	40,094,130	8.5	16.7 (15.7)
美術・宝飾・貴金属	29,785,186	6.3	4.6 (3.3)
その他雑貨	16,594,527	3.5	-4.0 (-4.8)
雑 貨	86,473,843	18.3	7.9 (6.9)
家 具	4,711,896	1.0	-12.4 (-13.0)
家 電	1,392,280	0.3	2.2 (2.2)
その他家庭用品	13,933,938	3.0	-4.8 (-5.6)
家 庭 用 品	20,038,114	4.2	-6.3 (-7.0)
生 鮮 食 品	28,184,998	6.0	-2.5 (-3.6)
菓 子	35,726,252	7.6	1.3 (0.2)
惣 菜	28,930,028	6.1	0.3 (-0.2)
その他食料品	48,344,146	10.2	-0.5 (-1.8)
食 料 品	141,185,424	29.9	-0.3 (-1.4)
食 堂 喫 茶	12,771,865	2.7	-0.1 (-1.1)
サ ー ビ ス	4,924,808	1.0	3.1 (0.5)
そ の 他	11,170,054	2.4	11.4 (10.5)
商 品 券	16,763,521	3.6	-4.0 (-4.8)

(注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

NEWS LETTER

II. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 2.4% (店舗数調整後／4か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -0.7% (店舗数調整後／2か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	2.4	1.7	4か月連続プラス
札幌	4.8	0.1	6か月連続プラス
仙台	4.1	0.1	2か月ぶりプラス
東京	1.1	0.3	11か月ぶりプラス
横浜	0.6	0.0	3か月連続プラス
名古屋	0.6	0.0	3か月ぶりプラス
京都	2.4	0.1	15か月ぶりプラス
大阪	7.3	0.9	6か月連続プラス
神戸	-0.5	0.0	2か月連続マイナス
広島	-1.4	0.0	9か月連続マイナス
福岡	5.0	0.2	3か月連続プラス
10都市以外の地区	-0.7	-0.2	2か月連続マイナス
北海道	-3.1	0.0	9か月連続マイナス*
東北	0.2	0.0	20か月ぶりプラス*
関東	0.8	0.1	2か月ぶりプラス
中部	-1.8	0.0	3か月ぶりマイナス
近畿	-5.2	-0.2	4か月連続マイナス
中国	-0.0	0.0	2か月連続マイナス*
四国	-0.0	0.0	2か月連続マイナス
九州	-1.2	-0.1	3か月ぶりマイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

News LETTER

III. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が7か月連続、身のまわり品が2か月ぶりのプラスとなった。また、衣料品が20か月連続、家庭用品が18か月連続、食料品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が27か月連続、菓子が4か月連続、美術・宝飾・貴金属、惣菜が3か月連続、子供服・洋品が2か月ぶり、家電が7か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	1.4	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	-0.8	0.0	11か月連続マイナス
婦人服・洋品	-0.6	-0.1	20か月連続マイナス
子供服・洋品	4.6	0.1	2か月ぶりプラス
その他衣料品	-3.2	-0.1	20か月連続マイナス
衣料品	-0.5	-0.1	20か月連続マイナス
身のまわり品	2.8	0.3	2か月ぶりプラス
化粧品	16.7	1.2	27か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	4.6	0.3	3か月連続プラス*
その他雑貨	-4.0	-0.1	2か月連続マイナス*
雑貨	7.9	1.4	7か月連続プラス
家具	-12.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
家電	2.2	0.0	7か月ぶりプラス
その他家庭用品	-4.8	-0.2	15か月連続マイナス
家庭用品	-6.3	-0.3	18か月連続マイナス
生鮮食品	-2.5	-0.2	39か月連続マイナス*
菓子	1.3	0.1	4か月連続プラス*
惣菜	0.3	0.0	3か月連続プラス*
その他食料品	-0.5	-0.1	4か月連続マイナス*
食料品	-0.3	-0.1	3か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-0.1	0.0	2か月連続マイナス
サービス	3.1	0.0	2か月連続プラス
その他	11.4	0.2	2か月連続プラス
商品券	-4.0	-0.2	76か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

NEWS LETTER

平成29年6月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年7月21日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 316億円余
2. 前年同月比	1.1% (11か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭2.2%(90.0%) : 非店頭-7.5%(10.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年5月対比±0店)
5. 総店舗面積	847,497m ² (前年同月比: -4.0%)
6. 総従業員数	18,591人 (前年同月比: -3.3%)
7. 3か月移動平均値	11-1月 -1.3%、12-2月 -1.7%、1-3月 -1.5%、 2-4月 -1.3%、3-5月 -0.7%、4-6月 -0.2%

[参考] 平成28年6月の売上高増減率は-3.2%

【特徴】

- (1) 東京地区の売上高は1.1%増と11か月ぶりにプラスに転じた。好天に恵まれたことや、多くの店舗で実施したクリアランスセールの前倒し、様々な媒体を絡めた集客及び販促策が奏功し、入店客数も1.0%増と2か月ぶりにプラスとなった。
- (2) 円安株高の資産効果やインバウンドによる高額消費は全国水準以上に活況で、特に高級輸入腕時計については都内各店共に好調に推移しており、これを含む美術・宝飾・貴金属は2か月連続プラスで6.1%増と高い伸びを示した。
- (3) 平年を超える気温上昇により夏物商材に動きが見られた。具体的なアイテムとしては、スカーフ・サングラス・帽子・日傘などのUV対策商品のほか、ピアス・ネックレスなどの手頃な装身具も人気で、身のまわり品は0.2%減とほぼ前年並みを確保した。
- (4) 6月30日にクリアランスセールをスタートした店舗では、前年同日対比で売上の伸長はあったが、セール初日効果の比較(対前年7月1日)ではやや振るわなかった。半面、同日のプロパー(定価)商材は前年を上回っており、慎重な商品選択と価値志向を強める消費者の購買行動の変化が見て取れる。
- (5) プレミアムフライデーは引き続き食関連が好調で、レストランでのコンサートや特別メニューなどの人気も高かった。
- (6) 7月中旬段階の商況は、0.6%増(7/18)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数18店舗)
①増加した：5店、②変化なし：6店、③減少した：7店
- (3) 6月歳時記(中元、父の日)の売上 (同上／有効回答数12店舗)
①増加した：1店、②変化なし：7店、③減少した：4店

NEWS LETTER

東京地区百貨店 売上高速報 2017年06月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総額	131,648,440	100.0	1.1
紳士服・洋品	9,716,148	7.4	-0.6
婦人服・洋品	20,606,837	15.7	-2.1
子供服・洋品	1,908,111	1.4	8.6
その他衣料品	2,382,704	1.8	-5.2
衣料品	34,613,800	26.3	-1.3
身のまわり品	17,713,783	13.5	-0.2
化粧品	11,995,662	9.1	15.5
美術・宝飾・貴金属	9,455,585	7.2	6.1
その他雑貨	5,136,524	3.9	-8.2
雑貨	26,587,771	20.2	6.8
家具	1,292,387	1.0	-15.1
家電	985,385	0.7	41.8
その他家庭用品	3,590,498	2.7	-15.5
家庭用品	5,868,270	4.5	-9.3
生鮮食品	5,797,406	4.4	-3.0
菓子	9,898,219	7.5	2.4
惣菜	7,101,173	5.4	-0.1
その他食料品	14,776,459	11.2	0.6
食料品	37,573,257	28.5	0.3
食堂喫茶	2,988,472	2.3	-1.7
サービス	2,036,189	1.5	6.3
その他	4,266,898	3.2	19.3

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商品券	4,294,991 千円	-4.4
従業員数	18,591 人	-3.3
店舗面積	847,497 m ²	-4.0

営業日数	30.0 日	前年	30.0 日
-------------	--------	----	--------

NEWS LETTER

II. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が7か月連続、食料品が2か月連続のプラスとなった。また、衣料品が20か月連続、身のまわり品が11か月連続、家庭用品が10か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が27か月連続、子供服・洋品が4か月連続、その他食料品が3か月連続、美術・宝飾・貴金属と菓子が2か月連続、家電が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	1.1	—	11か月ぶりプラス
紳士服・洋品	-0.6	0.0	5か月連続マイナス
婦人服・洋品	-2.1	-0.3	20か月連続マイナス
子供服・洋品	8.6	0.1	4か月連続プラス
その他衣料品	-5.2	-0.1	2か月連続マイナス
衣料品	-1.3	-0.4	20か月連続マイナス
身のまわり品	-0.2	0.0	11か月連続マイナス
化粧品	15.5	1.2	27か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.1	0.4	2か月連続プラス*
その他雑貨	-8.2	-0.4	2か月連続マイナス*
雑貨	6.8	1.3	7か月連続プラス
家具	-15.1	-0.2	6か月連続マイナス
家電	41.8	0.2	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-15.5	-0.5	3か月連続マイナス
家庭用品	-9.3	-0.5	10か月連続マイナス
生鮮食品	-3.0	-0.1	16か月連続マイナス*
菓子	2.4	0.2	2か月連続プラス*
惣菜	-0.1	0.0	12か月連続マイナス*
その他食料品	0.6	0.1	3か月連続プラス*
食料品	0.3	0.1	2か月連続プラス
食堂喫茶	-1.7	0.0	5か月連続マイナス
サービス	6.3	0.1	2か月連続プラス
その他	19.3	0.5	7か月連続プラス
商品券	-4.4	-0.2	5か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橋・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>